

大慈寺(糠塚)調査報告書－3

山門



山門

調査員 月舘 敏栄

調査期間 平成29年9月4日～11月6日

大慈寺(糠塚)山門 調査結果の概要	
1. 文化財の種類	県重宝(建造物)
2. 名称及び員数	大慈寺(糠塚) 山門 1棟
3. 所有者	宗教法人 大慈寺 住職 吉田 隆法
4. 所在地	八戸市長者一丁目6-59
5. 建築年代等	天保二年(1831)(棟札) 棟梁:藤岡善司(棟札)
6. 規模及び構法	<p>(1) 建築形式 三間一戸 木造二層楼門</p> <p>(2) 屋根形式 鉄板葺き入母屋屋根(当初は、茅葺き屋根)</p> <p>(3) 構造形式 木造軸組在来構法 和小屋組</p> <p>(4) 面積 延床面積 45.54㎡</p> <p>(5) 規模 下層 6.756m×3.810m 上層 6.218m×3.350m 軒高 約6.265m 棟高 約9.2m</p> <p>(6) 意匠 琴柱花頭風通路両脇に仁王像を安置し、上層中央に棧唐戸、両脇に花頭窓を設え、二軒に出三斗と鬘股を組んでいる。下層に中備のクラゲ状簀束も特長である。</p>
7. 沿革	<p>天保二年(1831)に棟梁藤岡善司により建てられた禅宗様の琴柱花頭窓風通路を持つ三間一戸の楼門である。</p> <p>度重なる大地震にも耐えてきたが、1994年三陸はるか沖地震で袖の土壁が倒壊するなどの被害を受けて、山門礎盤を敷き替え、筋違で耐震性を高めて現在に至っている。</p>
8. 建築的特色	<p>(1) 形式 禅宗様を基本とした三間一戸の二層による勇壮な山門である。下層前面は吹き放ちで両脇後間に仁王像を安置</p> <p>(2) 構法的特徴 下層は木製礎盤に円柱を建て、足固め貫等で固め、上層は二軒の疎垂木に出三斗を持つ入母屋屋根である。</p> <p>(3) 意匠的特徴 下層は極めて珍しい琴柱花頭風通路と中備のクラゲ状簀束、上層は棧唐戸に花頭窓の意匠が特長である。</p>
9. 保存状況	度重なる大地震のために架構に若干の歪みを感じられるが、柱・梁・桁などの主要部材は特に傷みはない。高欄回りの部材や軒回り、花頭窓部材に雨風による腐朽が生じている程度である。
10. 類似文化財	青森県内の類似文化財に長勝寺三門(重文、楼門)、刈泉院山門(県重宝)がある。両者に比して規模が小さく細部意匠も簡素であるが、「琴柱花頭窓風通路」は際立つ特徴である。
11. 指定理由	八戸市指定文化財(昭和38年(1963)指定)であり、棟札から建築年代及び棟梁が明確で琴柱花頭窓風通路と他にはない特徴をもつ県重宝に相応しい禅宗様の保存状態も良い楼門である。

大慈寺(糠塚)山門 調査報告

1. 文化財の種類 県重宝 (建造物)
2. 名称及び員数 大慈寺(糠塚) 山門 1棟
3. 所有者 宗教法人 大慈寺 住職 吉田 隆法
4. 所在地 八戸市長者一丁目6-59
5. 建築年代等 天保二年(1831) (棟札) 棟梁: 藤岡善司(棟札)

6. 規模及び構法

- (1) 建築形式 三間一戸 木造二層楼門
- (2) 屋根形式 鉄板葺き入母屋屋根 (当初は、茅葺き屋根)
- (3) 構造形式 木造軸組在来構法 和小屋組
- (4) 面積 延床面積 45.54㎡ (13.8坪)
- (5) 規模 下層 6.756m × 3.810m (3間4尺3寸 × 2間0尺6寸)
上層 6.218m × 3.350m (3間2尺6寸 × 1間5尺1寸)
軒高 約6.265m (3間4尺3寸)
棟高 約9.2m (5間0尺3寸)

*但し、1間=6尺=1818mmで換算

- (6) 意匠 琴柱花頭風通路両脇に仁王像を安置し、上層中央に棧唐戸、両脇に花頭窓を設え、二軒に出三斗を組む軒組である。上層内部の来迎柱の柱頭及び中備に出三斗を組むことが特徴である。

7. 沿革

松館大慈寺の宿寺であった福聚山大慈寺が天保元年(1830)に本寺に昇格した翌天保二年(1831)に建てられた琴柱花頭窓風通路を持つ二層の禅宗様三間一戸の楼門である。棟札に寄れば、大棟梁は藤岡善司で、松館大慈寺山門とは異なる。

「糠部五郡小史」(明治40年、1907)に山門の規模として、間口3間3尺、奥行2間と記され、現在の規模と同じである。

1994年12月28日の三陸はるか沖地震で両袖の土塀が倒壊するなどの被害を受けたので、山門床面の礎石を貼り替え、袖塀を再建した。

下層には雨風による際だった腐朽等は見られないが、上層の花頭窓の部材が破損し、高欄木材の普及が進んでいる。鉄板葺入母屋屋根は、当初柿葺であったと伝えられている。



写真-1 山門の棟札

8. 建築的特色

(1) 形式 禅宗様を基本とした琴柱花頭風通路を持つ三間一戸二層の小規模ながらも上層に高欄を廻した瀟洒な山門である。下層は桁行3間、梁行2間で、中央通路には礎座で棧唐戸を支え、外壁は横嵌板で囲われている。前の間両脇に仁王像が安置されている。上層も下層同様に桁行3間、梁行2間であるが、上層は50cmほど小規模である。上層正面中央に棧唐戸の1間半に4枚の引き違い棧唐戸を立て、両脇に花頭窓を設けている。上層周囲には擬宝珠付親柱を立てた高欄を廻している。



写真-2 琴柱花頭窓風通路を構える下層

写真-3 擬宝珠付親柱の高欄を廻した上層

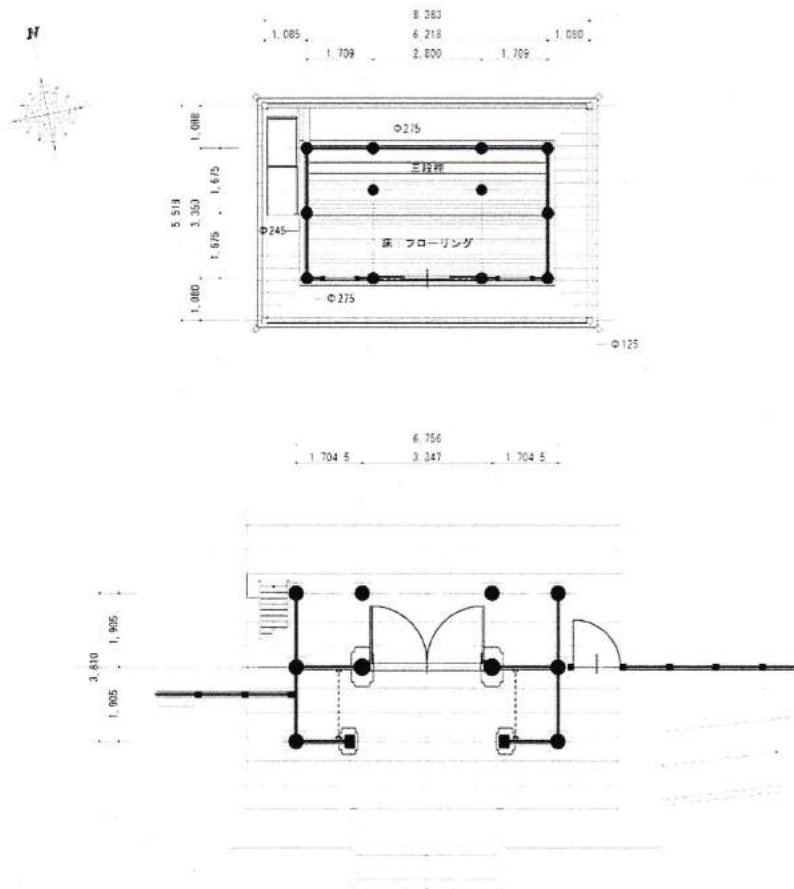


図-1 大慈寺(糠塚) 山門平面(上:上層、下:下層)

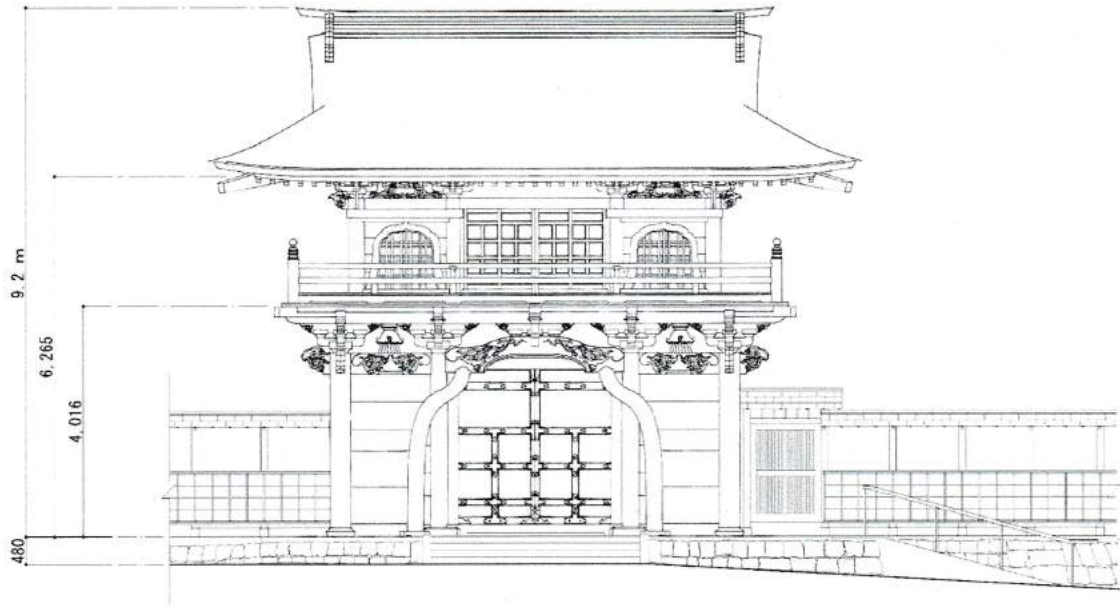


図-2 大慈寺（糠塚） 山門正面

(2) 構法的特徴

山門は石積みの基壇の上に石の礎石を敷き、木製礎盤の上に円柱を建てた三間一戸二層の八脚門として建られている。琴柱花頭風通路を作るために正面の中央柱を矩形の琴柱状柱に置き換えていることが特長である。下層の軸組を地覆・足固貫・飛貫・頭貫で固め、軒回りを出三斗を廻した繁垂木の伝統的木構造である。

琴柱花頭風通路は、2本の曲げた檜角柱と檜の冠木により構成されているが、角柱の反り返し部分に束を建てて上層の架構を支えるための出三斗を受けている。束を受ける角柱の反り返し部分に割れが生じている。

昭和43年(1968)の十勝沖地震や平成6年(1994)の三陸はるか沖地震により山門両側の土壁倒壊などの被害があったために、下層の袖壁内側の外壁に筋違を入れて補強している。

下層より上層が約54cm狭く、柱位置も下層と内側にずれているために上層までの通し柱はない。上層の柱は、下層桁の内側に廻る桁に建ち、それを出三斗の巻斗で受けて肘木を介して下層の側柱に荷重を伝達する架構である。



写真-4 木製礎盤上に円柱を建て、地覆・足固貫・頭貫で下層を固めている



写真-5 琴柱花頭風通路は、反り返しのある角柱と冠木で構成される

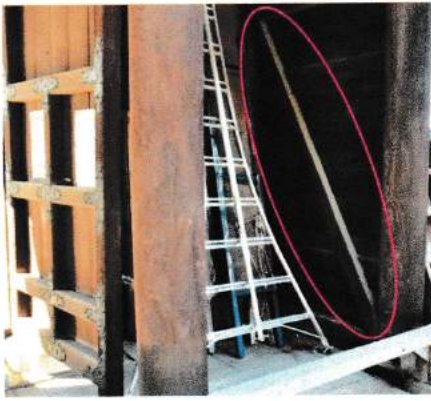


写真-6 山門下層の外壁を筋違で補強



写真-7 上層の柱が建つ桁を出三斗の巻斗と肘木で受けている

上層の鉄板葺き入母屋屋根は、当初は柿葺と推定される和小屋組の架構である。下層より約54cm狭い上層には円柱の側柱が建ち、地覆・飛貫・頭貫で固めている。長押が廻っているが丸釘で打ち付けている。高欄の床組は、目透の木口板による切り目縁で、縁端部に擬宝珠付親柱の高欄を廻している。

入母屋屋根の軒組は二軒を簡素な二手先で支え、中備は下層とは異なる臺股である。外壁は、横羽目板である。



写真-8 上層の側柱と架構

(3) 意匠的特徴

禅宗様を基本とした瀟洒な三間一戸二層の楼門を特徴付けているのは、「琴柱花頭風通路」を構えるために建てられた反り返しのある柱とムクリの大きい冠木である。琴柱花頭風通路は県内だけでなく、全国でも類例のない特徴的な意匠である。また、頭貫上の中備に当たるクラゲ風に見える簀束も目を引く意匠である。高欄を支える出三斗は簡略化された禅宗様である。

琴柱花頭風通路の棧唐戸を臺座で吊っていることも楼門には見られない特長である。



写真-9 琴柱と冠木による琴柱花頭



写真-10 クラゲ風簀束と簡素な出三斗

上層の正面は、棧唐戸と花頭窓で構成され、側面と背面は横羽目の板壁である。上層側柱は円柱で地覆・飛貫・頭貫・長押で固めている。入母屋屋根を軒組は、二軒を簡素な二手先で支え、中備は下層とは異なる蟄股である。



写真-1 1 入母屋屋根の軒組は二軒に
二手先と蟄股での構成

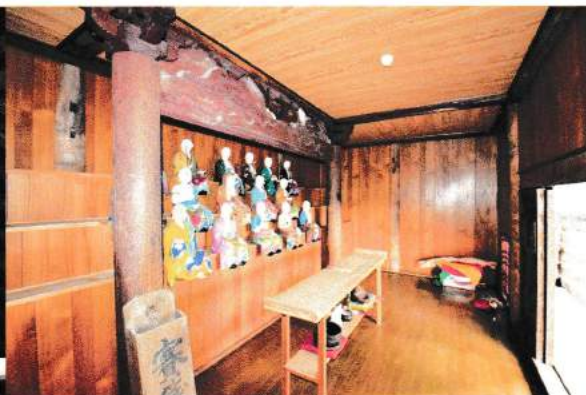


写真-1 2 上層室内に来迎柱と虹梁に
簡素な出三斗を組んでいる

9. 保存状況

山門建立後、180年余りの風雪と度重なる大地震で上層中心に老朽化が進んでいるが、柱・梁・桁や頭貫などの主要部材は際立つ傷みは見られない。

1994三陸はるか沖地震で袖塀が転倒したために、基壇床石を新袖壁礎石として建て替えられた。また、山門本堂側側壁に振れ止めの筋違を筋違を入れて補強している。

木材や金具の腐朽・腐蝕が進んでいるが、目立つのは風雨に晒されている高欄廻りの擬宝珠や手摺り、床板で一部改修されている。柿葺から鉄板葺きに換えたため屋根架構や軒回り目立つ腐朽などが見られず、保存状態は良いと言える。

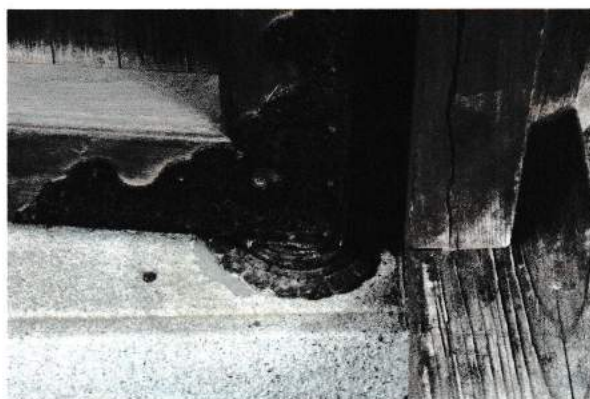


写真-1 3 木材の腐朽や金具の腐蝕が
見られる



写真-1 4 高欄床板の傷みが進んでいる

10. 類似文化財

青森県内の文化財指定の山門は、弘前市にある国重文の長勝寺三門、誓願寺山門、岩木山神社楼門の3棟と八戸市に建つ県重宝の南宗寺山門、大慈寺(松館)山門、対泉院山門の3棟の併せて6棟である。

三間一戸上下層形式の楼門は、国重文の長勝寺三門と県重宝の対泉院山門の2棟ある。前者は上下層とも間口9.7m、奥行5.7mと規模も大きく、通し柱が特長である。二軒繁垂木の軒組、三手先詰組と禅宗様の形式である。後者は、間口約7.9m（4間2尺）梁行約4.2m（2間2尺）と少し大きい禅宗様を簡素化した意匠は大慈寺（糠塚）山門に通ずる特長である。

大慈寺（糠塚）山門の琴柱花頭風通路は、国重文及び県重宝の山門にない特長である。



写真-15 長勝寺山門（重文）



写真-16 対泉院山門（県重宝）

1.1. 指定理由

福聚山大慈寺山門は建立に関わる由緒を記した天保2年(1831)の棟札が残る禅宗様を基本とした三間一戸上下層の瀟洒な楼門である。風雨による建材の腐朽や度重なる大地震にもかかわらず当初の特長が残る保存状態の良い山門であり、類似した重文長勝寺山門及び県重宝対泉院山門に匹敵する楼門である。

特に山門下層中央の琴柱花頭風通路は県内だけでなく、全国にも例の無い特長であり、県重宝に相応しい意匠の山門である。

1.2. 文献

- (1) 「青森県の近世社寺建築」 (I)、(II)
- (2) 文化財シリーズ「第28号 八戸の社寺建築 上」、「第29号 八戸の社寺建築 下」
- (3) 「曹洞宗 糠塚福聚山 福聚山大慈寺 写真と年表」
- (4) 「八戸糠塚 福聚山 大慈寺 寺誌」
- (5) 「青森県史 文化財編 建築」